

BE 試験方法基準化検討 WG H20 年度第 2 回会議 議事録

日 時： 2009 年 3 月 27 日（金）14：00～17：00
場 所： 地盤工学会中会議室
参加者： 山下、安部、荻野、川口、桑野玲子、澁谷（代理 川尻）、豊田、藤原、三上、中田、オブザーバー：桑野二郎

議事：

1. 前回議事録の確認 (資料 1)

2. 今年度の活動内容の進捗状況

・ BE の利用状況の実態調査（文献調査，アンケート調査）

✓ 文献調査結果について

荻野先生から、資料 2 に基づいて報告された。現時点、72 編分の調査結果について説明がなされた。なお、文献調査は、実態把握が目的であるため、論文中に記載のない内容であっても、わかる場合には記載する。とりまとめは 8 月までに行う。

✓ アンケート調査

桑野先生から、資料 3 に基づいて説明がなされた。

簡単な質問で、すぐ返信できる程度の内容にすることになった。この場合の質問は、BE に対して興味があるか、もっているかどうか、程度にする。この簡単な質問に対して、返答があった方に、実績、目的、基準化の必要性についての第 2 弾の質問をする。8 月までに第 1 弾の報告ができるように計画する。メーリングリストの利用について学会事務局へ問い合わせる。

・ 共通 BE を用いた一斉試験

✓ 試験結果を川口先生に送付する。神戸、東大、北見、長岡技科大、函館、山口

3. 次年度の活動内容

・ 調査内容の取りまとめと公表

8 月までに 3 つの内容を整理し、答申書の作成にむけた基礎資料を用意する。加えて、2011.9 IS-Korea、土と基礎、地盤工学ジャーナル、などへの投稿を検討する

- ・今後のスケジュール

8月 取りまとめ結果について、PPT を使った発表をすることとなった。

4. 基準化（答申）について

（基準化は可能か？ 基準化する場合の範囲は？）

高さ直径比や材料（最大粒径）に制限が必要ではないか

海外での普及状況をしらべるべきではないか

5. その他

以下の参考意見について

- ・一つ目については、アンケート結果で答申が見出せる
- ・二つ目については、基準化する際に記述に注意をはらうことで対応
- ・三つ目については、アンケート結果や共通 BE 試験結果で答申が見出せる。

第2回目は12月末に会議を行い、答申原案を作成

次回会議予定 2009年 8月18日

11：00ー

場所：地盤工学会研究発表会会場にて

資料

1. H20 年度第1回会議 議事録
2. 各担当者からの報告資料

参考「WG 設立時の基準部からの回答」

承認するにあたって以下について検討することを条件とする。

- ・実務ではほとんど利用されておらず一部の研究者のみにしか普及していないようであるので、この点に関して基準化が妥当かどうか検討する。
- ・基準の制定を通じて、地盤工学の発展に寄与するもので、技術向上を妨げないものであることを検討する。
- ・「せん断波速度を求めるためには、距離と時間を求めなければならないが、それぞれいろいろな方法があり、真実を求めることができない。真実を求めることができない方法を基準化することはできないので、基準化には反対である。」等の反対意見もあるので、基準化の是非については、会員等から幅広く意見を聞いて検討する。